

■ JXホールディングス(5020) 2014年3月期 第1四半期決算 アナリスト説明会 Q&A

1. 日 時 : 7月31日(水)14:30-15:30
2. 出席者数 : 111名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 1Q石油製品マージンが低迷した背景と今後の見通しは？

A. 様々な要因が重なったと思われるが、3月の気温上昇に伴う内需の減少と、当社水島製油所 B工場を含め長期停止していた製油所の再開が重なったことも一因と考える。足元のマージン水準は回復してきており、需要期に入っていることから当面は堅調な状況が継続しよう。

Q. 2Qおよび通期の円安効果をどのように考えるか？

A. 1Qは、前年比19円の円安により+150億円程度の効果があった。2Qも前年比約20円の円安と想定しているため、数量影響等による若干の誤差はあるものの、1Qと同程度の効果が期待される。通期（今後9か月間）については、1円の円安で、実質経常利益+15~20億、在庫影響+80億円程度の効果が見込める。

Q. 通期予算達成に向けて、今後の施策は？補修費の見直しも考えるのか？

A. 上期は、実質経常利益が当初より350億円下振れする見通しのため、通期予算達成のハードルは高いが、下期予算の作成作業の中でどのような収益改善策が図れるか各事業部門で検討を行っている。安全・安定操業確保のために必要な補修は計画どおり進める。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。